

土砂災害・風水害に備えましょう



これからの時期は、台風や雷雨、梅雨期の長雨や大雨により危険度が高まり、風水害や土砂災害が発生するおそれがあります。

特に、東日本大震災により地下の深いところまで地盤が緩んでいるおそれがあるため、今までより少ない雨量でも土砂災害が発生することが懸念されます。

また、昨年は県内においても竜巻の発生により、大きな被害を受けた地域があります。

風水害や土砂災害による被害を最小限に食い止めるには、日ごろから気象情報に注意するとともに、家の周りの危険箇所を確認したり、非常持出し品を準備するなど、事前に効果的な備えをしておくことが大切です。

◆避難場所は事前に確認を！

風水害や土砂災害の発生時に安全に避難するためには、避難所の位置や避難所までの経路を事前に確認しておくことが重要です。また、洪水やがけ崩れが予測される危険箇所を普段から把握しておくことも心掛けてください。

自宅の窓や屋根、雨どい、自宅周りの側溝などを再点検し、修理や清掃などが必要な場合には、早めに対処しておきましょう。被災時に家族が離れている場合を想定し、安全確認の方法を話し合っておくことも大切です。

◆非常時の準備と早めの避難を！

貴重品・衣類・非常食・携帯用ラジオ・懐中電灯・電池など、必要最小限の荷物をいつでも持ち出せるよう準備しておきましょう。

がけ崩れや土石流の恐れが高まったときは、テレビやラジオの警戒情報や、市役所、消防、警察などからの情報に注意しましょう。

また、雨量の変化や河川・斜面・がけなどの環境の変化にも気を配り、危険を感じたときは早めに避難するよう心掛けてください。



◆竜巻など突風にご注意を！

竜巻などの発生が予想されるときには、気象庁から竜巻注意情報が発表されます。

竜巻注意情報が発表された場合には、まず周囲の空の状況に注意を払ってください。さらに、空が急に真っ暗になる、大粒の雨が降り出す、雷が起こる、ひょうが降るなど、積乱雲が近づく兆候が確認された場合には、頑丈な建物に避難するなど身の安全を確保するよう心がけてください。

◆市では、自主防災組織の結成を推進しています。

災害はいつ起るかわかりません。「自分の身は自分で守る」という「自助」と、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」が災害から被害を軽減するために大切です。これら地域ぐるみで防災活動に取り組む組織として「自主防災組織」があります。平成25年3月末日時点の笠間市の組織率は、40.94%となっています。

まだ「自主防災組織」のない地域では、これを契機に家族や地域ぐるみで話し合い、いざというとき円滑に行動できるよう「自主防災組織の結成」など地域の防災力向上に取り組んでいただきますようお願いいたします。

「自主防災組織の結成」については、本年度まで補助制度の拡充を延長し、自主防災組織の結成を促進していますので、お気軽にご相談ください。

◆局地的な大雨によって起こる災害

急速に発達した積乱雲（雷雲）によって短時間に非常に激しい雨が局地的に降ることにより、道路や低地が水に浸ったり、河川が急に増水したりします。楽しい水遊びの場や生活の場が、ときに命を奪う非常に危険な場へと急変することを知り、気象の変化への注意を心がけましょう。



◀平成20年7月28日、兵庫県神戸市灘区の都賀川が急激に増水し、河川内の親水公園で水遊びをしていた子どもたちなどが流され、その内5人が亡くなった。左写真は平常時、右写真は事故発生時の都賀川で、川の水位は10分間で約1m30cmも上昇。（写真提供：神戸市ホームページ）

◆こんなときには天気急変に注意してください！

もし、このような場面に
いたら・・・

・川などでの釣りや水遊び
・沢登り、キャニオニング
・河川や下水道内の工事現場

・河原や川の中州でのキャンプ、バーベキュー
・線路や高速道路下を交差してくぐる半地下道路

こんなときは要注意

・**天気予報**：「大気の状態が不安定」、「雷」、「天気急変」などの表現があるとき
・**警報や注意報**：雷注意報、大雨や洪水の警報・注意報が出ているとき
・**レーダーなどの観測情報**（民間気象事業者の携帯電話サービスなどで入手）：周辺や上流で雨が降っているとき
・**空の状態**：「急に真っ黒な雲が近づいてきた」、雷鳴が聞こえる、「稲光が見えた」とき
・**川の状態**：「水かさが増えてきた」、「濁ってきた」、流木や落ち葉が流されてきたとき
・**警報装置**：サイレンの音が聞こえるとき
・**看板、表示板**：「危険区域には立ち入らない」、「雨の時には川から離れて下さい」、「通行止め」などの表示があるとき

異変を感じたら即、避難

◆雨の強さと降り方

時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘はまったく役に立たなくなる	
屋内（木造住宅を想定）	雨の音で話し声が良く聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロブレーニング現象）	車の運転は危険	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 都市では下水管から雨水があふれる	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある マンホールから水が噴出する 土石流が起こりやすい多くの災害が発生する	雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要

気象庁リーフレット「大雨や台風へ備えて」から一部引用

【問合せ】総務課 危機管理室（内線205・206）

オオキンケイギクは特定外来生物です

北米原産のオオキンケイギクは、道路沿いなどで黄色い花を咲かせ、年々その量・生育地を拡大していきます。この花は繁殖力が非常に強いので、在来種（昔から日本にあった種類）に影響を及ぼすことから「特定外来生物」に指定されており、栽培、運搬、販売、野外に放つことなどが法律で禁止されています。

※一般の家庭や畑などに生息している場合は、除草が必要となります。

○オオキンケイギクの特徴

多年草草本。高さ30～70cm程度。花期は5月～7月頃。直径5～7cmの黄橙色の頭状花をつける。

○少量を処理するときの注意

根から引き抜き、種の飛散がないようにその場で2～3日天日にさらすなど枯死させた後、ビニール袋などに密閉して燃えるごみとして処分してください。

特定外来生物に関する法律、規制内容など詳しくは、環境省外来生物に関するホームページでご確認ください。<http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>

【問合せ】環境保全課（内線125）

